



農業経営支援課
福手 裕三

一番茶対策は
万全に!!



晩霜対策

4月は、移動性高気圧が日本の上空を最も多く通過する時期です。移動性高気圧が通過したときに晴れて風が弱くなると、霜が降りる危険が最も高くなります。特異な例としては、夕方まで小雨が降り、宵から夜半に掛けて急速に晴れ上がると、放射冷却により凍霜害が発生することがあるので注意が必要です。防霜施設や資材の点検をしておきましょう。

病虫害防除

今月は、カンザワハダニやコミカンアブラムシなどが主な防除になります。特にカンザワハダニは、晩霜の被害を受けると多発することがあるので注意してください。各地域で春の病虫害調査を実施しているので、これらの情報をチェックしましょう。

一番茶の摘採

摘採適期が1日遅れることで、収量が8～12%増加し、全窒素含有率は0.1%減少します。また、摘採位置を1cm上げることで全窒素含有率は0.1%増加します。

摘採適期の判定は、いくつかの方法がありますが、一般的には全芽数に対する出開き芽数の割合で判断し、出開き度50～80%になると摘採適期となります。また、新芽の平均開葉数から判定することも可能です。一番茶の新芽は約5日で1枚開葉しますので、ここからおおよその摘採適期が推定できます。各地域では、一番茶前に生育調査を実施しているので、これらの情報と自身の茶園の生育状況等を把握し、適期よりも早めの摘採を心掛け、戦略的に無駄のない計画を立てましょう。

製茶機械の点検清掃

茶工場内や摘採機・製茶機械の清掃、点検は早めに行い、余裕を持って一番茶に臨んでください。近年、茶工場内や乗用型摘採機での労災事故が多発しています。工場内では、一緒に働く仲間の仕事内容を把握し、声掛けを行いましう。乗用型摘採機での作業は、時間と気持ちに余裕を持ち、無理な行動は避けてください。